

NewSophia No. 1

福岡歯科学園広報誌 | ニューソフィア |

vol.18 [65号]

福岡歯科大学は「口腔医学の確立」を推進しています



January
2010



contents

page

理事長・大学長 年頭挨拶	2
4月から眼科開設／文部科学省「学生支援推進プログラム」	3
理事長・大学長らがカナダ・北米へ口腔医学の視察	4
「疾患の抑制におけるゲノム安定性と環境ストレス」の国際シンポジウム	5
健康まるごと福岡歯科学園／公開講座	6
慶熙大学校との国際交流	7
完成間近の耐震工事／進むトイレ改修	8
FROM THE ALUMNI ASSOCIATION 同窓会だより	9
HI.FROM CLINICS クリニックからこんにちは	10
FROM PARENTS 学友会総務委員長決定／保護者からのメッセージ	11
平成22年度入試日程／福岡歯科大学特待生、 福岡医療短期大学特別奨学生／同窓会主催オープンキャンパス	12

福岡歯科学園

ホームページもご覧ください。

<http://www.fdcnet.ac.jp>

理事長・大学長 年頭挨拶

平成22年1月4日に講堂において行われた年頭挨拶で、田中理事長、北村大学長からそれぞれ次のとおり挨拶がありました。



平成22年の 重点目標

福岡歯科学園理事長
田中 健藏

新年明けましておめでとうございます。

皆様、それぞれに良い新年をお迎えになられたことと存じます。今年が皆様にとって、また福岡歯科学園にとって、平和で良い年でありますよう、心から念じて止みません。

世の中の動きは大変に激しく、国外では経済不況、種族、宗教などの対立をもとにした紛争が続き、国内では政権が交代し、政治、経済、教育、医療などの多方面に亘り改革・変化が進められ、デフレ不況の波が大きく打ち寄せて、多くの困難な課題が提起されています。

私共は、そのような社会教育環境のなかで、歯科学園としての使命を認識し、建学の精神を忘れず、私共皆で作った中期構想の実現に努力したいと思います。新春を迎え、今年の重点目標として、第一に、「口腔医学(口腔科)」の学問体系の確立に向けて、社会、行政、学界、医療界の理解と協力を得るよう努力する。「患者中心の医療」の「知の統合」として、「口腔医学(口腔科)」を確立し医療の一専門分野として「医歯一元化」を実現することは、医療分野の人材育成に係る基本的課題であると思います。このため、「戦略的学術連携支援事業(「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」)」を推進し、3年間の調査研究を続け、「口腔医学(口腔科)」の医療人養成のためのカリキュラムの充実を努める。なお、大学、学部の名称変更に向けて、協議を開始したいと思います。

第二に、教育面では、国家試験対策等を充実し、歯科医師国家試験合格率の上位定着及び歯科衛生士試験合格率100%を目指し、各教科の担当教授、教員は、国家試験の各専門教科の成績が全国平均以上になるよう努力して下さい。また、学生本位の視点を重視し、きめ細かな履修指導等学生支援の充実に取り組むとともに、本学の特色を活かした「教育改革」に向けて、文部科学省の助成事業である「大学教育改革支援事業」等を推進する。

入学志願者と入学者水準の確保のために、選抜方法の検討を行うとともに、

オープンキャンパスや入試広報活動を戦略的に展開する。学生実習室の改善を行う。また、診療参加型実習の充実に努める。

医療短大は、歯科衛生士試験合格率100%を目指すとともに、歯科衛生学科専攻科の充実を図る。また、保健福祉学科の存続等について、抜本的な検討を行う。

第三に、研究面では、先端科学研究センターの活用等による大学院の研究指導体制の充実を図り、学部卒業生の進学、および社会人再教育の受け入れを増やして、魅力ある大学院への改革に努める。また、科学研究費等の競争的研究資金の獲得に努めるとともに、教育研究経費の配分および教員等の重点配置、医員の定員等の見直し等を行う。

第四に、医科歯科総合病院は、眼科等の近接診療科の開設、診療責任体制の確立、病院情報システムの充実等により、総合医療センターとしての拡充を図るとともに、患者増に努める。

介護老人保健施設、介護老人福祉施設は、地域の保健福祉に貢献するとともに、教育研究の場として機能するよう努力する。また、デイケア・デイサービスの利用者増に努める。

第五に、病院棟は、耐震性の確保と老朽化対策の観点から改築を前向きに検討する。地球温暖化対策として、エネルギー使用の合理化に努める。

最後に、第六として、学園財政の健全運営に努め、入学定員確保のため、学納金を検討し、それに関連する財政の見直しを行う。学園の活性化を図るため、人事考課制度を充実し、処遇に適正に反映させる。年度末手当および期末手当に、診療・介護事業収入や競争的研究費獲得等の財務貢献実績を勘案する。

教職員の資質向上のため、各種研修等の充実・強化を図る。

以上を今年の最重要目標として、皆さんと共に努力したいと思います。

今日までの青野常務理事、本田常務理事、北村大学長、栢短大学長、本川病院長、厚谷事務局長、松葉施設長、山川施設長をはじめ、教職員の皆さんが、教育、研究、診療、地域への貢献、学問的貢献という大学の使命実現のために、並々ならぬ御盡力をされたことに心から敬意を表し、今年もひきつづき、法人、教員職員が一体となって、正しい倫理観としっかりした価値観、それに目的意識を持って、明るく楽しい学園を作り、学生が意欲をもって勉学し、同窓生が誇れる母校をつくることを目指したいと思います。

今年が皆様にとって良い年でありますように、重ねて心から念じて、新年の挨拶と致します。

皆様、元気で頑張りましょう。



口腔医学元年

福岡歯科大学長
北村 憲司

新年明けましておめでとうございます。2010年の新しい年を迎え、一言、ご挨拶申し上げます。

この数年、本学には厳しい冬の時代が続いています。歯科医師の収入が減少したことによって、歯科医師は過剰であるということが社会通念化し、あたかも歯科医師を育成する大学が大量に卒業生を送り出していることにその原因があるような捉えかたをされています。

確かに、歯科医師数が減少すれば個々の歯科医院の収入は増え、歯科医師過剰という声はなくなるでしょう。しかし、口腔疾患が減少したのでしょうか。口腔ケアを必要とする人に十分な医療の恩恵が与えられているのでしょうか。治療を受けるのに、何時間も待ち、数分で治療を終えざるを得なかった状況が望ましい医療なのでしょうか。今、私たちは、歯科医療が社会ニーズに対応できなくなったために生じた矛盾を「歯科医師過剰」というワンフレーズの中に押し込め、「歯科医師過剰」を解決すれば、すべてが解決するという虚構の中にいるように思います。65歳以上の高齢者が人口の3割に達している高齢社会にあつて歯科医師の果たす役割は確実に変わってきています。従来の健康な人を対象とした歯科医療から、病氣と共生している人を対象としたものへ、歯と周囲組織を対象としたものから全身の健康を担う口腔医療にその役割は大きく変わろうとしています。

社会が歯科医師に求めているのは数の削減ではなく質の変化です。歯と

その周囲組織に専門知識を持つ技術者ではなく、口腔と全身の健康に必要な専門知識を持った医師の育成です。そうした口腔医療を実践できる口腔医はこれまでの歯科医学教育では養成できません。臨床各科の素養を持った口腔専門医を育成する教育、口腔医学教育が求められています。これが大学に、医療に求められている社会の要請であり、この方向を見失わない限り、本学の未来は約束されています。私たちは「歯科医師過剰」という虚構に惑わされるのではなく、社会が必要とする口腔医の育成を、口腔医学によって自信を持って行うことが必要です。教職員全員が「口腔医学の確立」に力を合わせて欲しいと思います。

本学は今年で創立38年目を迎えます。大学としての歴史はまだ浅く、若い大学ですが、そのかわり何かを創造するエネルギーを持った大学です。伝統が人を作る大学ではなく、創造するエネルギーが人を作る大学です。創造するエネルギーは私たち教職員・学生の中にあります。私たち一人一人が福岡歯科大学を愛し、その一員としてやるべきことを、責任を持って行うことに創造するエネルギーが実在します。

2010年という節目の年の初めに当たって、大学の理念を実現するために自分ができることは何か、今年の目標として一つ掲げ、それを実行していただきたいと思っています。その力が卒業生が誇れ、在校生が意欲を持って学ぶ魅力溢れる大学に成長するための大きな力になります。

大学は淘汰の時代を迎え、大きな試練の中にいます。試練は人を苦しめますが、同時に成長を促します。医療を必要とする人にとって最善を考えることに間違えた道はありません。ウィリアムオスラーは「医学は患者とともに始まり、患者とともにあり、患者とともに終わる」と述べていますが、患者にとってよい医療とは何か、医療にとってよい教育とは何かをともに考えながら、本年が口腔医学を実践する元年となることを、また本学と皆様にとってよい一年となることを祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

4月から眼科開設

福岡歯科大学では、口腔疾患を全身と関連づけて診ることができる歯科医師を養成するため“口腔医学の確立”を目指した特色ある教育、診療を行っています。この方針に基づき、歯科だけでなく内科や外科を始めとする隣接医学の充

実にも重点的に取り組んできました。本年4月から畑快右先生を教授として迎え、本学医科歯科総合病院に「眼科」が新たに開設されます。

文部科学省「学生支援推進プログラム」に採択

文部科学省の平成21年度「学生支援推進プログラム」に、福岡歯科大学の取組「臨地体験と就業情報通信システム構築による歯学生の就業支援強化」が採択されました。この事業は、各大学・短期大学・高等専門学校から申請された、各大学等における学士力の確保や教育力向上のための取組の中から、達成目標を明確にした効果が見込まれる取組を選定し、広く社会に情報提供するとともに、重点的な財政支援を行うことにより、我が国の高等教育の質保証の強化に資することを目的としています。

本学の取組では、学生が早い時期から都市部や遠隔地での多様な歯科臨床現場を体験し、歯科医師としての将来像を

描かせるなどの就業意識を高め、さらに生涯を通じて意欲的に研鑽を積む姿勢や職業倫理意識の向上を図ります。これらの体験を報告会で共有し、体験報告の記録に加えて、都市部での特徴ある診療や離島僻地診療、口腔ケアの実績等遠隔地での就業情報を、ポートフォリオ等の在学生の情報と併せて就業情報通信システムを構築します。ICTの活用により就業先のニーズと個々の学生が描く将来像や能力との適合性の向上を図り、生涯研修の第一歩として最適な臨床研修施設の選定を学生が主体的に行える能力を身につけさせるとともに、就業への支援を強化するものです。

ご支援、ご協力をお願い致します。



福島忠男准教授らが特許を取得

歯科医療工学講座の福島忠男准教授らが、下記のとおり特許を取得しました。

- 特許番号:第4354445号
- 発明の名称:DNA/キトサン複合体の成形方法
- 特許権者:
 - ・岡畑恵雄(東京工業大学・大学院生命理工学研究科生体分子機能工学専攻・教授)
 - ・福島忠男
 - ・株式会社マルハニチロ食品
- 発明者:
 - ・岡畑恵雄・福島忠男・川口稔



左から福島准教授と川口助教

福島准教授は、「特許取得は初めての事で驚いています。企業側は、今後は国際特許を視野に入れることも考えており、将来は商品化に生かされればと願っています。」とコメントしました。

谷口奈央講師が三井住友海上福祉財団助成金を獲得

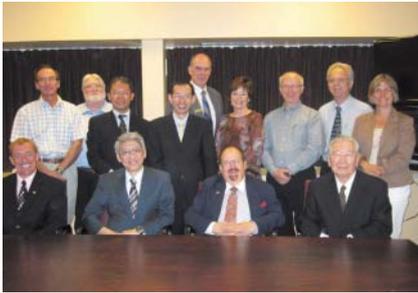
総合歯科学講座の谷口奈央講師が、「乳酸菌配合オイルを利用した高齢者の口腔の健康増進におけるプロバイオティクス効果」(研究課題)の研究で三井住友海上福祉財団の助成金を獲得し、11月18日に東京の住友会館において行われた贈呈式に出席しました。



助成金の贈呈を受ける谷口講師

カナダ・米国における口腔医学の現状視察

総合歯科学講座 高齢者歯科学分野 准教授 内藤 徹



カナダ・ダルハウジー大学にて:
写真の全員にインタビューをさせていただきました

9月19日から10月1日までの13日間、田中理事長、北村大学長、佐藤教授と私の4名で、カナダ・米国の口腔医学に関する教育・意識、歯学教育のカリキュラムの現状などを調査するための視察に行き参りました。

最初に訪れたカナダ東部ハリファックスのダルハウジー大学では、大学訪問の前日から前学部長のCohen名誉教授のご自宅に招待され、手ずから用意して下さった和食を頂きながら、どうやって口腔医学のコンセプトが生まれ、医科との境界領域をどのように考えるべきか、半日間のディスカッションを行いました。Cohen教授はたいへん博識な親道家で、ご自身の著書「The Child with Multiple Birth Defects」に「講演舞臺 (Cohen Michael)」という自筆の漢字のサインをして田中理事長に贈呈され

ました。

次に訪れたケンタッキー大学では、米国で実際に「Oral Physician Program」(口腔医養成プログラム)を提唱・実施されたNash教授らと、熱い議論を交わしました。ダルハウジー大学およびケンタッキー大学では、田中理事長自ら「From Dentistry to Oral Medicine as a Specialty of Medicine」と題した講演をされ、本学が中心となって模索している口腔医学の方向性について、各大学の多数の教員の先生方と意見を交換しました。

ボストンでは、タフツ大学の平山先生、ボストン大学の蒲池先生にそれぞれの所属する大学を案内していただきました。また、ボストン美術館の近くでは、田中理事長がハーバード大学留学中に住まっていたというアパートメントを訪問し、50年近く前の若き日の思い出に浸られていました。そして最後の訪問地ロサンゼルスでは、南カリフォルニア大学と大学間提携の覚書を交わすことができ、今後、活発な学生交流が開始するものと期待されます。

今回の視察では、5大学を訪問し、インタビューをさせていただいた教授は30名を超えました。カナダ・米国ともに、公的保険ではほとんど歯科治療がカバーされておらず、社会保障制度や医療関連法規は異なりますが、より良い医療や歯学教育を提供しようとする姿勢は

世界共通でした。カリキュラムの自由度が非常に高く、歯学部在学中に2~4年間の追加の教育で医師免許を取得できるプログラムがあるなど、日本の歯学教育とはずいぶん異なっていることが実感されました。いずれの大学も、高い診療レベルと充実した教育プログラム、病院管理システムを保有し、それぞれの大学のミッションをアピールしていました。入学試験の方法が日本とは異なるものの、いずれの大学も入学定員の10倍を超える志願者を集め、全国から極めて優秀な人材を集める環境にあることがわかりました。学生の多くは、自らローンを組んで年間数百万円の学費を都合しており、卒業後はすぐに臨床に出られるように、まさに競うようにして臨床実習に取り組んでいる姿勢が強く印象に残っています。

視察にあたり、学内・学外の多くの方に大変なご配慮を賜りました。関係者各位に深く感謝いたします。



米国・南カリフォルニア大学:
田中理事長とSadan学部長の覚書の調印

文部科学省戦略的大学連携支援事業 口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考

FDワークショップ及びSD研修を開催

11月13日、神奈川歯科大学横浜研修センターにおいて、平成21年度FDワークショップが開催されました。

当日は連携8大学から30名の参加があり、講演、グループワーク、全体発表会等が行われ、活発な議論が交わされました。

また、11月20日、21日の2日間、神奈川歯科大学において、戦略的
大学連携支援事業平成21年度第2回SD研修が開催されました。

研修は、各連携校の教学・管理部門所属の中核的な職員を中心に26名の参加があり、初日には桜美林大学・大学院大学アドミニストレーション研究科船戸高樹教授により『ベテランからプロフェッショナルへー大学改革、職員の役割-』という講演タイトルで行われた基調講演の様様を連携大学にTV配信し、合わせて106名が参加しました。



FDワークショップの様様

口腔医学シンポジウムを開催

1月9日、福岡県歯科医師会館視聴覚室において、戦略的
大学連携支援事業『口腔医学』シンポジウムが開催されました。

『「口腔と全身の健康」-口腔医学の礎-』というテーマで、北村大学長、豊福明氏(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授)、角保徳氏(国立長寿医療センター病院先端医療部医長)、中山恵美子氏(福岡市保健福祉局健康福祉のまちづくり部)、時枝正信氏(読売新聞西部本社編集委員)の講演の後、田中理事長の司会により、講演者による討論が行われました。全国から歯学・医学の関係者ら123名が参加し、活発な意見交換の場となりました。



「疾患の抑制におけるゲノム安定性と環境ストレス」の国際シンポジウム

本学では文部科学省の戦略的研究基盤形成事業の支援をうけて、「疾患の抑制におけるゲノム安定性と環境ストレスの制御」の研究を平成20年度から5年間にわたって実施しています。この研究が発足して1年を迎えたところで、これまでの成果をまとめ、今後の研究の展開をはかるために、平成21年12月7日に国際シンポジウムが開かれました。このシンポジウムには、この分野で活躍する外国の有力な研究者が招待され、本学の研究者と活発な議論が行われました。

シンポジウムはまず田中健蔵理事長の挨拶で始まり、先端科学研究センター長の関口睦夫教授が戦略的研究の取り組みについて述べ、

続いて本学の瀬戸山大樹氏、熊本大学の有森貴夫氏の2人の若手研究者が酸化ストレスに対抗する酵素の働きについて分子生物学と構造生物学の両面からのアプローチについて述べました。

さらに本学の早川浩教授と日高真純教授が、遺伝子発現とアポトーシスに関わる新しいタンパク質の役割についてそれぞれ報告しました。

今回のシンポジウムには、アメリカのDemple教授(ニューヨーク州立ストーンブルック大学)、フランスのFuchs教授(国立科学研究機構マルセユ研究所)とTakahashi教授(同ナント研究所)が参加し、それぞれ最新の研究結果について発表しました。

シンポジウムの翌日には、これら外国人研究者を中心いくつかのグループにわかれて少人数の研究者による討議が行われましたが、これも今後の研究活動の連携をはかる上で有意義でした。



「老化の機構を探る」戦略的研究のシンポジウム



このシンポジウムは平成21年11月30日に行われ、本学の3人の研究者と中国の老年医学の研究者による研究成果の発表がありました。さらにわが国の老年医学のリーダーである折茂肇教授(健康科学大学学長)による予防老年学(preventive gerontology)についての特別講演が行われました。

老化は様々な要因の集積によって起こると考えられますが、生体内の代謝に伴って生じる活性酸素は特に重要です。本学の先端科学研究センターの高木康光准教授は、酸化ストレスによるゲノムの損傷とそれを防ぐ酵素系の働きについて述べ、中国衛生部の北京老

年医学研究所の蔡剣平教授は、老化促進マウスの脳の組織ではこれらの酵素が顕著に減少し、それに伴って核酸中の酸化塩基の量が増加することを報告しました。一方、本学内科学の大星博明教授は、老化に伴う脳血管障害の問題点を示し、今後の治療戦略としての遺伝子導入の展望について述べました。特別講演で折茂教授は、歯と骨の密接な関連を指摘し、全人的立場に立った研究戦略の必要性を強調されました。このシンポジウムには本学の多数の教員、学生が参加しましたが、活発な討議を通じて今後の研究活動について一つの方向性が示されました。

福岡医療短期大学『歯科衛生士の口腔機能向上スキルアップ講座』を開講

文部科学省の“社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム”に、福岡医療短期大学の『介護予防新時代における歯科衛生士の口腔機能向上支援をスキルアップする実践教育』が採択されました。

口腔機能の向上支援が高齢者の要介護状態を予防する介護予防として介護保険に導入され、歯科衛生士の新たな業務として注目されています。福岡医療短期大学では文部科学省の委託を受け、21年度より『介護予防新時代に

おける歯科衛生士の口腔機能向上スキルアップ講座』を開講中ですが、受講定員40名に対して150名もの応募がありました。これは、超高齢社会における口腔機能の向上支援への関心の高さと、社会人歯科衛生士の皆さんの学習意欲の表れと思われます。21年度講座は22年1月末に終了し、48名の受講者が修了証を受ける予定です。22年度は、5月～9月に全9回の講義・演習を開講し、その後は同じキャンパス内にある介護施設サンシャインシティならびに

サンシャインプラザでの口腔介護実習(31時間)が実施される予定です。全プログラムを修了した受講生には修了証が交付され、福岡県歯科衛生士会や同歯科医師会等との連携により修了者の派遣や紹介を通じて、口腔機能向上による介護予防の普及を目指しています。

現在、22年度受講生(定員40名)を募集しています。お問い合わせは福岡医療短期大学スキルアップ事務局(TEL:092-801-0439)まで。



口腔周囲筋のトレーニング

学習プログラムの概要

教育項目	授業形態	時間数	単位数
A.口腔介護の知識と技術	講義・演習(相互実習)	27時間	2単位
B.日常生活介護の知識と技術	講義・演習(相互実習)	18時間	1単位
C.介護施設実習	学園内の施設で臨地実習	31時間	1単位

日時および詳細については、後日お知らせします。

健康まるごと福岡歯科学園

医療・保健・福祉だけでなく、より広い分野での地域貢献を果たすため、10月24日、25日の両日、今年で5回目となる「健康まるごと福岡歯科学園」が開催され、延べ2700人以上の来場者で賑わいました。

学園祭「田の歯科祭」

第35回「田の歯科祭」が、正門北側駐車場を会場として開催されました。メインステージでは、我が家と風犬ナンジャのお笑いライブをはじめ、次郎丸中学校吹奏楽部による演奏、地域の子供たちの大人顔負けのダンスや太鼓演奏など盛りだくさんの内容でした。



講演会

10月25日、福岡歯科大学901教室において、柏木征三郎氏（国立病院機構九州医療センター名誉院長）による講演が「新型インフルエンザとその対策」と題して行われました。100人を超える参加者は、今世間を騒がせている新型インフルエンザの対策について熱心に聞き入っていました。

医科ミニ講座

内科・外科・心療内科・耳鼻咽喉科の先生方による各20分間の講義が行われました。少人数で身近なテーマで行われたため、活発な質疑応答が交わされていました。



歯の無料相談

むし歯・歯周病や義歯などの相談に多くの方が来られました。



からだの科学展

福岡歯科大学本館1階において、「見る・聞く・触れるからだの不思議」をテーマに開催され、延べ700人以上の来場者で賑わいました。歯や骨の模型を並べたり、歯科材料でネイルアートをしたりと楽しくからだの不思議を体験しました。



短大企画「ご用心!お口と介護」

歯科衛生学科は、正しい歯磨き指導を行い、保健福祉学科は車イス体験コーナーやセラピー犬との触れ合いコーナーを設置するなど介護する側、される側を体験できる催しとなりました。

介護施設見学・介護無料相談

介護老人保健施設サンシャインシティおよび、介護老人福祉施設サンシャインプラザにおいて、入所者の作品展示や施設内見学、さらに介護についての相談にも対応させていただきました。

公開講座

福岡歯科大学

10月18日、福岡県歯科医師会館において平成21年度福岡歯科大学公開講座「お口とからだの健康管理からはじめる長寿—歯周病から脳卒中まで—」が開催されました。

歯周病から脳卒中までその予防と関連性について高齢者歯科・口腔外科・内科の3人の講師による講演が行われ、参加者は専門医の講演に熱心に聞き入っていました。



福岡医療短期大学

9月27日、福岡医療短期大学307教室において開催された第9回福岡医療短期大学公開講座「要介護者の生活支援—要介護者を支える介護現場での連携について—」に学内外から介護福祉士、歯科衛生士、施設関係者など129人が参加しました。参加者にとって介護における様々な立場の生の声を聞く良い機会となりました。



3大学合同シンポジウム開催

11月7日、中村学園大学において「地下鉄七隈線沿線3大学合同シンポジウム」が開催されました。今回は「がん予防のエッセンス—がんにならないための生活習慣—」をテーマとし、福岡歯科大学からは大関悟・口腔腫瘍学分野教授が「口腔癌は怖くない—予防と早期発見のための自己検診—」について講演を行いました。会場に集まった約200人の受講者のがんに対する関心は非常に高く、公開討論では活発な質問が飛び交っていました。



質問に回答する講師（第2部討論）

ふくおか「まち探訪」健康ウォークスタンプラリー2009に参加

11月14日、15日、早良区と中央区を中心に行われた「ふくおか『まち探訪』健康ウォークスタンプラリー2009」に協賛団体として参加しました。唐人町商店街において「お口と体の無料健康相談・血流量ストレス度無料測定」を行い、2日間で約230名の方が、歯周病やかみ合わせのほか、内科や耳鼻咽喉科について相談に訪れました。



FD講演会

12月11日、福岡歯科大学504教室において、『学生のメンタルヘルス』（講師：一宮 厚、九州大学健康科学センター教授）をテーマに助教以上の教員を対象とした平成21年度FD講演会が行われました。ストレス関連障害等についての説明に、参加者も熱心に聞き入っていました。また、講演の様子は、TV授業システムを利用して連携大学にも配信し、好評を得ました。



昇任教員紹介

さなだ まさゆき
真田 正幸 准教授

分子機能制御学分野

略歴

山口大学農学部卒。九州大学大学院農学研究科博士課程中退。福岡歯科大学助手、講師を経て、平成21年12月同大学准教授に就任。理学博士。山口県出身。

抱負

月日の経つのは早いもので来年退職することとなりました。退職までわずかな期間しかありませんが、残り少ない日を学生の教育だけでなく研究の方でも更に成果を出し、研究がまとまるように頑張ります。



慶熙大と国際交流

咬合修復学 有床義歯学分野 大学院2学年 根本 哲臣



慶熙大講堂

10月4日から2週間、私たち大学院生3名は引率教授2名と共に慶熙大の海外研修に参加させて頂きました。慶熙大はソウルの私立大学で最も長い歴史を持つ大学で、国際交流が活発に行われており、様々な国の学生が在籍しています。今回、私たちは主に歯科大学病院、一般開業医での研修、歯学部学生との交流を行ってきました。

韓国の医療水準は高く、大学病院では積極的に欧米諸国の最新技術を用いて治療を行いました。しかし、漢方などの東洋医学を治療に取り入れるなど、常に独自の発展を模索していることが大変興味深く、日本にはない診療科もあり様々

な発見をしました。一方で韓国と日本の診療体系の共通点も多く、各科の風景はとても良く似ていました。特に患者への思いやりや歯科医師の治療に臨む姿勢などは共通していて、医療の根底にある考えに国境は関係ないということを改めて再認識しました。

それから学生達は明るく勤勉で、恩師に敬意を払うなど、紳士的でした。学生との会話の中で、カリキュラムはアメリカ方式を取り入れており、卒業するまで8年かかるという事、さらに韓国の男性は徴兵の義務があり、この徴兵制度が将来設計に大きく影響を及ぼしている事を知りました。そして、近年の韓国歯科事情として、日本と同じく歯科医師過剰問題に直面しており、歯科医はより狭き道になりつつあるようです。

研修を終えて修了書授与式の際、「語学を勉

強して、世界中に沢山の友達を作って自分のレベルを上げなさい。」と、学長からメッセージを頂きました。語学力の重要性は私たちが二週間の中で痛感したことであり、コミュニケーションの大切さを思い知らされました。今回の海外研修で経験してきたことを、今後の自分の糧として切磋琢磨していこうと思います。

最後に、私達を歓迎して下さいました韓国の方々和日本の関係者各位に感謝申し上げます。



修了書授与式



Park学長による指導

海外研修派遣

【福岡歯科大学】

所属	職名	氏名	用務	派遣先	派遣期間
口腔インプラント学分野	教授	松浦正朗	「下顎前部におけるインプラント手術の合併症について」中華口腔医学会主催のデンタルショーシンポジウムにて講演	天津市 (中国)	自:H.21. 9. 16 至:H.21. 9. 20
冠橋義歯学分野	教授	佐藤博信	口腔医学カリキュラム等の視察	ハリファクス(カナダ) レキシントンボストンロサンゼルス(アメリカ)	自:H.21. 9. 18 至:H.21. 10. 1
高齢者歯科学分野	准教授	内藤徹	口腔医学カリキュラム等の視察	ハリファクス(カナダ) レキシントンボストンロサンゼルス(アメリカ)	自:H.21. 9. 19 至:H.21. 10. 1
総合歯科学分野	教授	廣藤卓雄	大学院講義 選択必修テーマ 「15.国際医療事情」 慶熙(キョンヒ)大へ大学院生引率	ソウル (韓国)	自:H.21. 10. 4 至:H.21. 10. 10
歯科保存学分野	教授	阿南壽	大学院講義 選択必修テーマ 「15.国際医療事情」 慶熙(キョンヒ)大へ大学院生引率	ソウル (韓国)	自:H.21. 10. 11 至:H.21. 10. 17
成育小児歯科学分野	教授	本川渉	2009年韓国小児歯科学会秋季大会へ招聘	全州市 (韓国)	自:H.21. 10. 15 至:H.21. 10. 18
口腔健康科学分野	講師	晴佐久悟	平成21年度 戦略的連携支援事業 海外視察 ・The University of British Columbia ・University of Missouri-Kansas City School of Dentistry	バンクーバー(カナダ) カンザスシティ(アメリカ)	自:H.21. 10. 21 至:H.21. 10. 29
口腔インプラント学分野	講師	山本勝己	第5回Asian Academy of Osseointegrationにてポスター発表 演題: "Case of an implant-supported overdenture utilizing CAD/CAMabutments for magnetic attachments"	バリ (インドネシア)	自:H.21. 11. 19 至:H.21. 11. 23
外科学分野	教授	鴻江俊治	平成21年度 戦略的連携支援事業 海外視察 ・Catholic University of Leuven ・University of Santiago de Compostela	ルーベン(ベルギー) サンティアゴデコンポステラ(スペイン)	自:H.21. 12. 6 至:H.21. 12. 12
口腔顔面美容医療センター	講師	松永興昌	CAMLOG foundation International Expert Meeting(IEM)にて「Platform switching or standard prosthesis? Emphasizing the advantage of standard implant prosthesis」の題目で口頭発表	リスボン (ポルトガル)	自:H.22. 1. 20 至:H.22. 1. 24

【福岡医療短期大学】

所属	職名	氏名	用務	派遣先	派遣期間
歯科衛生学科	准教授	松尾忠行	アメリカ研修旅行引率 (専攻生10名)	ロサンゼルス (アメリカ)	自:H.21. 10. 28 至:H.21. 11. 7

完成間近の耐震補強工事

地震等災害発生時における学生等の安全確保のため、昨年3月から始まった本館の耐震補強工事は、建物の外部・内部の鉄骨ブレース等による補強や外部塗装が完了しました。足場やシートも撤去され白とグレーのツートンカラーにリフレッシュした本館がその全容を現しました。2月からは1階の外回り、2階ベランダの整備等が行われ、3月末に竣工



全容を現した本館

の見通しです。

昨年9月に開始された医科歯科総合病院のうち研究棟（総合歯科学分野等の臨床系研究室等が配置されている部分）の耐震補強工事も、建物の外部・内部の鉄骨ブレース等による補強や窓枠取替え等がほぼ終了。この後、外部塗装、防水工事等が行われ、3月末完成の予定です。



防音シートに覆われた研究棟

明るく、清潔で、エコなトイレ

耐震工事と並行して、明るく、清潔で、かつエコなトイレ環境の整備を目指して進められていた本館、研究棟のトイレ改修工事のうち、本館部分については1月中に1階から9階まですべての階の改修が終わりました。現在は、研究棟部分の1,2階の改修が行われています。

今回の改修は、便器、手洗い器、配管類の経年劣化や扉、床、壁の蓄積汚れを解消するとともに、節水型自動洗浄便器・手洗い器の設置により、年間386万ℓ（小学校の25mプールの約13杯分に相当）の節

水効果を見込むなど環境にも配慮した設計となっています。また、女子学生の増加に対応するため、女子用の便座を37個から45個へ増やしたほか、大便器は全てウォシュレットに、照明スイッチには人感センサーを採用し、臭いを排除するため換気口も増設しました。

利用者からは、「明るくきれいで使いやすい」「臭いがなくて気分がいい」等、好評を得ています。



改修前

本館8階トイレ

改修後



改修前

研究棟4階トイレ洗面台

改修後



献体者慰霊祭

10月15日、午後1時から博多区祇園町の普賢山萬行寺において第34回献体者慰霊祭が行われました。ご遺族、施設関係者をはじめ福岡歯科大学学生及び学内外の関係者418人が参列し、厳かに献体者の尊い御霊のご冥福を祈りました。



実験動物慰霊祭

10月15日、午後4時半からアニマルセンターの実験動物慰霊碑前において第34回実験動物慰霊祭が行われました。日頃アニマルセンターを利用し、実験等に携わる関係者が多数参列し、実験動物の諸霊に感謝し、霊を慰めました。



福岡歯科大学学会総会

12月23日、福岡県歯科医師会館において第36回福岡歯科大学学会総会（会長：湯浅賢治・画像診断学分野教授）が開催されました。学内外から304人が参加し、シンポジウム「全身を診する歯科治療…口腔医学を目指して」や一般口演、ポスター展示が行われました。

なお、学会奨励賞には市原隆洋診療放射線技師（福岡歯科大学医科歯科総合病院放射線室）と大学院3年来海慶一郎氏（口腔・顎顔面外科学講座口腔外科学分野）が選ばれました。



From The Alumni Association

同窓会だより

福岡歯科大学同窓会主催第23回学術講演会

『救歯臨床のススメ』一歯を救って長期に守る—講演会報告

中 四良 (5期)



平成21年11月1日(日)午前10時から、天神クリスタルビル3Fで、東京都開業の黒田昌彦先生を講師に迎え学術講演会が開催された。黒田先生は、「コーンスクローネ」の著者で歯科補綴学の分野や歯科医師会でかかりつけ歯科医を推進した高名な先生ですが、今回は『救歯臨床のススメ』一歯を救って長期に守る—と題して御講演を頂いた。

救歯臨床とは、黒田先生が名付けた言葉で、

「歯を抜かれて喜ぶ患者様はいない」ということから歯を救う努力をし、次に、歯がどうして抜けるのか、抜けないためにはどうするのかを検討する歯科臨床のことを言います。御講演では、先生の30年以上にわたる継続管理された患者様から得た検証をパーシャルデンチャーの症例を中心に報告された。まず、パーシャルデンチャーの支台装置の設計で重要なのは、支持>安定>維持の順であり、特に支台歯を長持ちさせるためには支持を支台歯の根尖方向にかけられるコーンスクローネの支台装置の優位性を述べられた。また、先生の症例で説得力があったのは、初診から現在まで継続管理している患者数が1,613名で、そのうち10年管理した患者数が702名、20年~30年管理した患者数は283名もいることである。そして、患者様のモチベーションをあげるために、東京都衛生局が

1994年に東京都歯科医師会と協力して作製した歯の生涯図(現在歯数と年齢との相関関係)を活用していることやスタッフとともに取り組んでいることも述べられた。

最後に、救歯臨床のところがけとして、とことん歯を残す努力をし、患者様と向き合って継続受診に努力することを惜しまないことを述べられて閉会した。



同窓会通信 「高嶺 明彦氏 無念」

顧問 寺尾 隆治 (1期)

民主党が政権政党となり50年体制が崩壊した。歯科界も御多分に漏れず対応に右往左往しているのが現状である。我々歯科医師は国から資格を与えられ、国民に上質な歯科医療を提供する責務を負わされている。政権が変わろうとも我々の責務は変わらない。今まで通り日々の診療に真摯に取り組めば良いのである。しかるに日歯は、国民のための歯科医療政策を基本理念に則って政権与党に提示し、その実現のためには歯科医院の経営の安定も不可欠であることを訴えなければならない。もし、現在の与党で我々の願いが叶えられないので

あれば、野党を選択すれば良いのである。勿論、日歯と連盟において議論を尽くした結果である事は当然の事である。日歯連盟は8月に職域代表統一候補者として同窓生である沖縄県の高嶺明彦氏を決定した。我々同窓生は歓喜に沸いた。しかし、政権交代直後の臨時評議員会で自民党からの出馬取り止め、また、高嶺候補自体も白紙にしてしまった。事情は判らなくは無いが、余りにも主体性に欠けた性急過ぎる判断ではなかっただろうか。もう少し議論があっても良かったのではないだろうか。この事に一番翻弄されたのが高嶺氏自身である。氏が「歯

科界のために何とか役に立とう」と立候補を決意し、日歯評議員会での出馬の決定前後、終止一貫して情熱を燃やし精神的に活動していたのを間近で見えてきた私には、氏の無念さを思うと今もって掛ける言葉が見当たらない。高嶺氏にはこの無念に沈む事なく、新たなステップに向かって動き出して欲しい。この苦境にある歯科界に一筋の光明が射す様に、国民の歯科保健・医療が向上するためにも、氏の知恵を役立てられる場に立って欲しいと願っている。心から高嶺明彦氏にエールを送る。

卒業生トーク

「Towards global eminence」 梶尾 陽介 (29期)



今、私は本学の総合歯科の大学院に在籍しています。総合歯科の大学院では口臭の研究をして、去年はドイツのドルトムントにもいかせてもらえました。今年はスペインのバルセロナで開かれる学会にも参加する予定です。

大学院に入って2年目になりますが、特に去年は大学院の交流事業で韓国、ソウルの慶熙大に2週間の短期研修をしたことです。慶熙大は大きな総合大学で、キャンパスのきれいさと歯科大病院のシステムには感動しました。今回の表題のTowards global eminence(世界の卓越を目指せ)は大学のスローガンです。

韓国の歯学部は、一度4年制大学を出てそれから入学するアメリカの歯学部と同じカリキュラムです。特に男性は兵役が2年間義務づけ

られているのでかなり大変です。韓国の学生に大学の実習の打ち上げにも呼んでもらって、とても楽しい時間を過ごしました。私が今回驚いたのは韓国の歯学生の語学力の高さでした。私も英語と韓国語をもっと勉強して、今度会ったときに驚かせてみようと思っています。

このような数多くのことを体験できるのも歯科大関係者や、同窓の先生方のおかげです。この場をかりて深く感謝します。

最後になりましたが、今年一年の大学関係各位のご健康とご多幸をお祈り致します。



慶熙大歯学部3年生との記念撮影

四半世紀



同窓生の皆様明けましておめでとうございます。3期卒業の小川内充です。昭和56年卒業後、東京で2年間勤務の後昭和58年に佐賀県杵島郡大町町にて開業し、早四半世紀が過ぎました。今でもよく覚えているのですが、開業初日は17人の患者さんが来院されました。当時の来院される患者さんの口腔内は惨憺たる状態で毎日毎日が悪戦苦闘の日々でした。東京で勤務していたせいか、義歯の患者さんはほとんど経験がなく、どうすれば噛める義歯が入れられるか苦勞していました。これではだめだと思い、阿倍晴彦先生のコースを受講したのがきっかけで、研修会通いが始まりました。故保母須弥也先生のIDA、恩師の山田勲先生の矯正研修会、船越栄治先生のペリオ研修会、故古賀正秀先生のオステオパシー研修会、富田健二先生のコンプリートデンチャー研修会、一田栄治先生のプロネマルクインプラント研修会等…。また、友人にもめぐまれ「佐賀0の会」というスタディーグループに参加し臨床歯科を語る会にも出席させてもらいました。

おかげをもちまして、これまで26年の間に2万6千人もの患者さんの治療に携わってきましたが、未だに試行錯誤の毎日です。私どもの医療法人 小川内歯科の理念のひとつに患者様に対して「恕の心」を持って接するということがあります。これは、患者様の立場に立って私も含め従業員全員一人一人が治療に専念するというのですが、毎日朝礼時に全員でこのビジョンステートメントを復唱しています。

最後になりましたが、本年10月佐賀県武雄市で九地連学会が開催されます。たくさんの同窓の先生方との再会を楽しみにしておりますので、是非多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。

小川内歯科(佐賀県杵島郡大町町) 小川内 充(3期)

写真上=医院外観
写真下=筆者(前列中央)とスタッフ



三種の神器？



こんにちは、19期生の湯田和正と申します。昨年は新型インフルエンザに振り回された1年でしたが、皆様いかがだったでしょうか？ようやくワクチンの接種が始まり、小さなお子さんのいらっしゃる方、持病をお持ちの方はホッとされたことだと思います。

平成17年に1階にあった父の婦人科医院を2階へ移ってもらい、1階に「湯田歯科医院」を新規開業いたしました。その頃の患者さんといえば2階の婦人科の患者さんがほとんどで、女性に囲まれて診療していました。男性の方は入りづらかったそうです。お陰様で今年5年目を迎え、近所の方(老若男女)にも来院していただけるようになり、ようやく地域貢献の第一歩を踏み出しました。

開業当初にふと眺めていたテレビで「行きたくない病院のNo.2は婦人科でNo.1が歯科」という声が流れてきました。スタッフと「ではこの建物は行きたくない病院のNo.1とNo.2が入っているのですね」と笑った事をよく覚えています。

ところで、皆さんにとって三種の神器は何でしょうか？下の写真でおわかりのように、私の神器はライトとルーペ(3.5倍)とルンバ君(自動掃除機)です。今まで見えてるつもりが、実は全く見えていませんでした。ヨドバシカメラで購入したライトと合わせると「目から鱗」です。メガネは借り物ですが、いつかは自分のものにしようと思っています。さて、ルンバ君。一番の働き者。診療が終わってからもずっと(文句も言わずに)働いてくれます。この三種と優しいスタッフに支えられ日々働いております。

痛みと不安をかかえて来院される患者さんの気持ちにこたえ、定期健診や予防、フッ素塗布の必要性を強く訴えて「行ってよかったNo.1」となる様、日々精進して参りたいと思います。これからも皆様のご指導よろしく願いいたします。

湯田歯科(福岡市) 湯田 和正 (19期)

写真上=医院外観
写真下=筆者と三種の神器



学友会総務委員長決定

任期満了に伴う福岡歯科大学学友会総務委員長の改選が1月5日に行われ、第4学年 橋本麻利江さんが総投票数485票中439票(90.5%)の信任票を獲得し、4月1日付で平成22年度学友会総務委員長に就任することが決定しました。



歯科衛生学科卒業研究発表会

11月4日、福岡医療短期大学307教室で歯科衛生学科3学年の卒業研究発表会が行われました。約4ヶ月間のテーマに沿った実験・調査等により、発表資料もグループごとに趣向を凝らしたものとなりました。



研究の成果を発表する学生

餅つき

12月28日、本館学生食堂南側の庭園にて恒例の「餅つき」が行われました。

餅つきには役員や教職員約200人が参加し、つきたてのお餅を入れたぜんざいなどがふるまわれ、1年を振り返りながら懇親を深めていました。



サンシャインプラザ・サンシャインシティ「クリスマス・忘年会」

12月5日、介護老人福祉施設サンシャインプラザにて「忘年会」が、また、12月20日には隣接の介護老人保健施設サンシャインシティにて「クリスマス・忘年会」が開催されました。入所者や職員による出し物などが披露され、入所者やご家族、職員ら共々大いに賑わい、楽しいひと時を過ごしました。



サンシャインプラザ「忘年会」



サンシャインシティ「クリスマス・忘年会」

保護者からのメッセージ FROM PARENTS



宮崎 宏延

(福岡歯科大学)

デンタルデフレスパイラル

ここ数年、受験生の歯科離れが進んでいたが、つい平成21年度は、私立大学中11校で定員割れを招いた。歯科を取り巻く経済環境は悪化をたどり、投資と回収を考えた時、国民目線では夢の無い構造不況業種と映っているようだ。

我が家の子供三人は、ともに歯科医師を志しており由々しき状況にあるが、30年前、自身の大学卒業時を思うと隔世の感がある。当時、我々は潤沢な医療費財源に支えられ、歯科疾患を抱える健常者を効率的に治療することに専念していたが、時代の変化に目を反らして来たのではないかと。少子高齢化が進む中で、修復から予防へとシフトしていけば、従来の対象者は減少して行き、縮小するパイを増加する歯科医師で分け合うことを考えれば当然の結果である。

そこで採られた対策はというと、分母の増加を押さえる為に国家試験という出口を絞っただけである。

振り返ってみても、自分の不勉強もあるが歯科医療のエリアは2割ぐらいいか増えていないように見え、医科歯

科領域問題もあって口腔外科や麻酔分野では縮小した感もある。近年、保険診療への新技術の導入も殆ど無く、高齢化の進む中で歯科医療の必要性が叫ばれながら、歯科医療費のパイは縮小して行く。

医科は、医療費改定は同じく厳しいものの、新技術の導入や高齢化に伴う自然増それに保健及び介護(福祉)を統合してみると堅調な伸びを示している。

妙案は浮かばないが、歴史を振り返ってみても、不況からの脱出には新しい市場開発が有効である。「ワーキングプア」や「生き残り」などと後ろ向きな言葉が囁かれるが、歯科医師という国家資格は思っている以上に間口の広いものである。せっかく若い豊富な人材があるのだから、従前と変わらぬような歯科医師を輩出するのでなく、歯科のグラウンドを拡げるような学生教育・卒業後研修が必要と思われる。

かの進化論を唱えたダーウィンは次の言葉を遺している。「強い者が生き残るのではなく、賢いものが生き残るのでもない。唯一生き残るのは変化出来るものである。」



石橋 正邦

(福岡医療短期大学)

感謝の気持ちをもって

私は今から30数年前、当時歯科大1期生が4学年の頃から4年間程、現在の医療短大の教室で講義の手伝いや病院実習の助手として大学に勤務しておりました。それからなんと年月の経つのが早いものか、今私の娘が医療短期大学歯科衛生学科3年生として在学しており、順調に行けば来春は卒業です。今は大学病院での臨床実習を終えたばかりで、至ってノンビリしています。今後は卒業試験、国家試験と正月返上で猛勉強し、全員合格を目指して頑張っておきたいものです。

さて、近年高齢社会を迎え、歯科保健、医療、福祉をめぐる環境は急速に変化しています。歯科疾患の状況、歯科医療の内容や目標は社会の変化とともに変わるべきで、従来型のう蝕や歯周病の治療・予防に加え、高齢者向けの口腔ケア、食べ物の嚥下法、栄養管理など、

それに応じての対応も常に変化してゆかねばなりません。当学園は正に、そのニーズに逸早く取組み、役員、教職員の方々の大変な苦勞、努力によって日本の短大歯科衛生学科では初めてのホームヘルパー2級の資格が取得でき、学園内に介護老人保健施設、特別養護老人ホームを併せ持つ、口腔介護実習を行う大学は他にありません。“学生の皆さん”このすばらしい環境の中で、より高度な知識と技術を十分に培い、この環境を創設、整備して頂いた学園の教職員の方々に常に感謝の気持ちを忘れず、誇りを持って学生生活を謳歌してください。

今後我々歯科医師も、歯科衛生士学校が3年制になった以上は、業務内容を改善し、今まで以上にプロの歯科医療従事者として、やりがいを持たせる様にすべきだと考えます。

【平成22年度入学試験】

福岡歯科大学

区分	歯学部			大学院 歯学研究科
	一般入試A日程	センター試験利用入試	一般入試B日程	二次募集
募集人員	約40名	約6名	約5名	14名
出願受付期間	H22.1.4(月)~1.28(木)	H22.1.18(月)~2.12(金)	H22.2.8(月)~3.11(木)	H22.1.25(月)~2.12(金)
試験日	2月2日(火)	2月14日(日)	3月13日(土)	2月18日(木)
合格発表日	2月4日(木)(午後5時)	2月17日(水)(午後5時)	3月15日(月)(午後5時)	3月4日(木)
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 学務課入試係 TEL.092-801-1885(直通) FAX.092-801-0427 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/col ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/colhp E-mail:gakumu@college.fdcnet.ac.jp			

福岡医療短期大学

区分	歯科衛生学科				専攻科・口腔保健衛生学専攻
	一般入試A日程	一般入試B日程	一般入試C日程	AO入試	三次募集
募集人員	約15名	約5名	若干名	約40名	若干名
出願受付期間	H22.1.5(火)~1.28(木)	H22.2.2(火)~2.17(水)	H22.3.1(月)~3.10(水)	詳細は入試係までお問い合わせください。	H22.3.25(木)~3.29(月)
試験日	2月1日(月)	2月19日(金)	3月12日(金)		3月30日(火)
合格発表日	2月5日(金)	2月26日(金)	3月16日(火)		3月31日(水)
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 歯科衛生学科入試係 TEL.092-801-0439(直通) FAX.092-801-4473 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcol/ ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcolhp E-mail:gakumuj@college.fdcnet.ac.jp				

区分	保健福祉学科				
	一般入試A日程	一般入試B日程	一般入試C日程	一般入試D日程	AO入試
募集人員	約5名	若干名	若干名	若干名	約15名
出願受付期間	H22.1.5(火)~1.28(木)	H22.2.2(火)~2.17(水)	H22.3.1(月)~3.10(水)	H22.3.16(火)~3.23(火)	詳細は入試係までお問い合わせください。
試験日	2月1日(月)	2月19日(金)	3月12日(金)	3月24日(水)	
合格発表日	2月5日(金)	2月26日(金)	3月16日(火)	3月26日(金)	
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 保健福祉学科入試係 TEL.092-801-0923(直通) FAX.092-801-4473 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcol/ ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcolhp E-mail:gakumuj@college.fdcnet.ac.jp				

※保健福祉学科は、平成21年度入試から入学定員(募集人員)を変更しました。

同窓会創立30周年記念
オープンキャンパスを開催

大学概況説明

11月29日、本学同窓会主催の第1回オープンキャンパスが開催されました。遠くは広島、宮崎などから12家族総勢25名の参加があり、正午から同窓会役員挨拶、参加教員および参加者の自己紹介を行い、午後1時から学内施設見学を約2時間かけて行いました。午後3時からは田中理事長、北村学長の挨拶、岡部学生部長から大学概況説明をいただいた後、本学役職教員との懇談会も行いました。参加者からの感想を述べてもらいましたが、特に同窓生としての学費の減免の要望が多く聞かれました。昨今の歯科界の低迷と100年に一度の不況は、我々の同窓生にも明らかに影響していることが伺われました。午後4時、盛会裏のうちにオープンキャンパスは終了しました。

馬場 篤子(12期)



診察室見学

特待生・特別奨学生決定

福岡歯科大学特待生

平成21年度の第1学年特待生に大島優さんが選ばれ、11月26日、第3会議室において表彰式が執り行われました。この特待生は平成21年度前期の、学業成績が特に優秀であり、品行方正かつ健康であることを加味し決定され、当該年度の授業料の半額(190万円)が免除されます。



福岡医療短期大学特別奨学生

平成21年度第1学年特別奨学生に次の4人が選ばれ、10月29日、本館第1会議室において表彰式が執り行われました。特別奨学生は、当該年度の授業料の半額(歯科衛生学科:21万円、保健福祉学科27万5千円)が免除されます。

歯科衛生学科

保健福祉学科



坂口 由利香



青山 理恵



福原 一世



増田 義弘